

# DENKI

きらきら vol. 39



発行 一般社団法人  
日本電気協会中部支部

## 第39号 Contents

電気記念日祝賀会のご案内	1
勝野哲会長 2026年新春インタビュー	2~3
中部近畿産業保安監督部長 年頭所感	4~5
事業報告 (滋澤賞、次世代層育成、見学会)	6~7
ふるさと紀行 岐阜県恵那市	8



勝野会長

## 勝野哲会長 2026年新春インタビュー

日本電気協会中部支部会員の皆さん、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いします。

年頭にあたり、中部支部 勝野哲会長に、今年、当支部が重点的に取り組んでいくことなどを語っていただきました。

### 支部ニュース

### 電気記念日祝賀会を開催します

ぜひご参加いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

#### 【開催概要】

日 時 令和8年3月25日（水）10:00~13:00

場 所 名古屋東急ホテル

次 第	●式 典	傘寿功労者	感謝状授与
		永年従事功労者	表彰状授与
		特別功績者	表彰状授与
		叙勲・褒章受章者	祝品贈呈

●記念講演会 講師 石丸 謙二郎 氏  
演題 「明日に夢中」

●午 餐



石丸 謙二郎 氏

電気記念日祝賀会に参加を希望される方は、1月中旬ごろに会員の皆さん宛てにお送りするご案内文書に同封しております参加申込書に必要事項をご記入の上、当支部事務局までお願いします。（2月13日締切予定）

#### 記念講演会 講師プロフィール

#### 石丸 謙二郎 氏

1953年生まれ、大分県出身。つかこうへい舞台『いつも心に太陽を』（1978年）でデビュー。1987年からは、テレビ朝日系『世界の車窓から』のナレーションで、人気を博す。2018年より、NHKラジオ「石丸謙二郎の山カフェ」のパーソナリティー。落ち着いたトーンの声質と渋みのある演技で、テレビ・舞台・映画と幅広く活動。プライベートでは多趣味なアウトドア派。ウインドサーフィン、登山、フリークライミング、ピアノ、釣りを趣味としている。著書「野筆を片手に」（モンベルブックス）、「山は泊まってみなければ分からぬ」「犬は棒に当たってみなければ分からぬ」「台詞は喋ってみなければ分からぬ」「蕎麦は食ってみなければ分からぬ」「山は登ってみなければ分からぬ」（敬文舎）、「山へようこそ—山小屋に爪楊枝はない」（中央公論新社）。

- 石丸謙二郎ブログ <https://ishimaruk.exblog.jp/>
- 青年座映画放送 <https://www.seinenza-eihou.com/>
- 石丸謙二郎公式サイト <https://ishimaru-kenjiro.com>

## ● 勝野哲会長 2026年新春中部支部インタビュー ●

# デジタルとフィジカルが融合した 時代にふさわしい現場技術者の育成を

—— まずは新年のメッセージをお願いします。

明けましておめでとうございます。会員の皆さんにおかれましては、穏やかなお正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より当支部の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。今年は愛知・名古屋でアジア・アジアパラ競技大会が開催されます。世界から多くの方が中部地方に来訪されるこの機会に、当地域の産業や文化の素晴らしさを発信する年にしていきたいと考えています。



—— 業界を取り巻く環境、特に人材不足についてのお考えをお聞かせください。

最大かつ喫緊の課題は「人」です。第7次エネルギー基本計画（以下、第7次基本計画）などの議論において、データセンターや電化の進展により電力需要は「減少」から「増加」へと転換しました。しかし、それを支える現場の電気技術者が圧倒的に不足しています。当支部で行っている第一種電気工事士の定期講習受講者数も、5年周期の山はあるものの、ピーク自体が徐々に低くなっています。更新者が減り、若手の入職も少ないという「山谷がなくなってきた」危険な兆候が出ています。

世の中はAIに代表されるようにデジタル化が進んでいますが、インフラを最後に支えるのは技術を持った人です。しかも、これから電気技術者は従来の電気技術だけでなく、AIやIoTといったデジタルツールを使いこなしながら現場作業を行う必要があり、こうした人材を育てることが急務です。

—— 2025年の中部支部の取り組みを振り返ると。

電気技術者の裾野を広げるため、近年、次世代層教育に力を入れており、2025年もこれを充実する形で活動を行いました。「電気の魅力を伝える特別講座」は、会員企業のご協力の下、愛知、静岡、岐阜、三重の7校の高校生に向けて、会員企業の若手社員が電気の魅力を伝えるもので、毎年好評を得ています。7年目の2025年は講師に中部電気保安協会も加わり9社となりましたし、これをきっかけに会員企業に就職した事例も出ています。ある高校での講座には附属中学校の生徒も参加してくれ、終了後「中学生向けの講座を」との要望も受けましたので、2026年度実施に向けて検討しています。日本ボーイスカウト愛知連盟と協力した「あいちスカウト★フェスタ」へのブース出展や中高生のスカウト向けの「電気技術講習会」も好評でした。

電気技術者育成講習会は、受講実績を踏まえ、「低圧電気取扱者に対する安全衛生特別教育」「高圧受電設備規程」「電気設備技術基準・解釈」については募集枠を拡大、「高圧・特別高圧電気取扱者に対する安全衛生特別教育」については回数を増加しましたが、いずれも100%前後の受講率となり、高まる受講ニーズを的確に捉える結果となりました。このほか佐久間ダムなどエネルギー関連施設の見学会、第一種電気工事士定期講習、認定電気工事従事者認定講習なども実施しました。

—— 2026年の活動方針は。

今年は、電気技術に加えてデジタルツールを使いこなす「現場技術者の育成」、電気関連業界への理解と就業促進に向けた「積極的な情報発信」、関連業界団体や関連する学会との連携による社会変容にふさわしい「実効性ある協働」の3つを柱として、また“電気のプロフェッショナルとしての活躍”をスローガンとして取り組んでいきたいと考えています。

具体的には、引き続き次世代層向けの理解活動を強化するとともに、電気技術者育成講習会においても、受講希望者の多い講習会は募集枠や開催回数の増加を図ります。また電気保安の高度化を

テーマにした「スマート保安セミナー」については、類似する2つのセミナーを統合し、熱や空気まで範囲を広げAIやIoT、クラウドなどの活用事例を盛り込んだ内容を検討いたします。

日本電気協会は、電気事業者、メーカー、工事会社、大学が集まる稀有な組織です。これまででも会員同士がつながる「プラットフォーム」としての機能は果たしてきましたが、ただ「連携しましょう」と言っているだけでは何も変わりません。プラットフォームの上で、具体的にプロジェクトを動かす「アクション」が必要です。今年はそれを進めていきたいと考えています。その第一歩として、前述の「スマート保安セミナー」は電気設備学会中部支部と連携し実施する予定です。

### —— 昨今の電気事業をめぐる動きについては。

2025年に策定された第7次基本計画やGX2040ビジョンでは、2040年をターゲットに再エネ主力電源化方針の継続や原子力活用など、これまで以上にチャレンジングな電源構成が示されました。しかし再エネや原子力をただ導入すればいいわけではなく、「産業競争力」を維持する視点が重要です。例えば洋上風力発電は資材高騰や円安でコストが上昇し、プロジェクト自体が厳しい状況に置かれています。また、設備が海外製ばかりではエネルギー安全保障上のリスクがあります。洋上風力で「関連部品の国内調達率65%」という目標を掲げているように、国内にサプライチェーンを構築・維持する戦略が必要です。かつての太陽光パネルのように、海外勢に市場を席巻されて国内メーカーが撤退する事態は避けねばなりません。

原子力についても同様です。再稼働はもちろんですが、リプレースや新設の方針を明確に示さなければ、メーカーは投資ができずサプライチェーンが途絶えてしまいます。2040年に向けて、予見可能性のある事業環境を整えることが求められます。

### ——データセンターなどの新規需要に対しては。

AIの普及で急増するデータセンターなどの局所的な大規模需要に対しては、従来の「大規模電源・長距離輸送の電力システム」だけでは対応しきれません。需要地の近くで発電し、直接供給する「地産地消」モデルや、マイクログリッドのような自立分散・地産地消型のエネルギー・マネジメントとの併用が求められます。こうした取り組みは災害大国の日本では、レジリエンス強化にも役立ちます。米国ではSMR（小型モジュール炉）とデータセンターの組み合わせも進んでいます。日本も制度設計を見直し、こうした需要に柔軟に対応していく必要があります。

### —— 2026年は電力業界にとって大きな節目の年ですね。

電力小売全面自由化から10年、東日本大震災から15年。電気事業の制度や環境を、もう一度根本から見つめ直す時期に来ています。発電・送配電・小売の分離を進めてきましたが、局所的大規模需要対応や大規模発電所建設などには発送販一体的な取り組みが必要になります。託送料金制度や電源投資の回収スキームなどを見直し、持続可能な電力システムへ再構築することが必要です。さらに2026年度から本格化する排出量取引制度（GX-ETS）についても、事業者の脱炭素投資の原資を奪わないよう、慎重な制度設計を期待しています。

先日オーストラリアとニュージーランドを視察して感じたのは、「オープンイノベーション」の重要性です。資源国である彼らは、モノづくり産業が少ない分、スタートアップへの投資や新技術の実装が非常に進んでいます。当支部のある中部地域には、強力な「モノづくり」の基盤があります。ここに、海外のスタートアップや、デジタル、デザイン、アートといった異分野の視点を掛け合わせることで、更なる新しいものづくりが生まれるはずです。

### —— 会員の皆様へメッセージをお願いします。

電気工事であれ、保安であれ、あるいは営業であれ、「自分たちが社会を支えているんだ」という「プロフェッショナルとしての気持ち」を持っていただきたい。それがご自身の心の支えとなり、社会からの信頼につながります。日本電気協会は、こうした技術者を育成し、会員の皆様と共に具体的な「アクション」を起こすことで、この変革の時代を切り拓いてまいります。



## 年頭所感

# 新年の御挨拶

中部近畿産業保安監督部長

小池 勝則

令和8年の年頭に当たり、謹んでお慶びを申し上げます。

貴協会会員の皆様には、平素から、産業保安行政に対する格別の御高配を頂き、厚く御礼申し上げます。

昨年は、岩手県大船渡市で発生した林野火災や度重なる豪雨・台風、青森県東方沖を震源とする地震をはじめとして、多くの自然災害が発生した一年でした。当部管内に目を向ければ、一昨年に発生した能登半島地震や奥能登豪雨を忘れる間もなく、9月には静岡県牧之原市周辺において台風に伴う突風被害が発生しました。まさしく「天災は、忘れる間もなくやってくる」ものであり、当部管内にも甚大な被害が生じる南海トラフ地震に対し、改めて「自分ごと」として充分な備えが必要であると感じさせられる年でした。

さて、現在我が国の経済は、国際秩序の変化と国内の人口減少・少子高齢化に直面する中、気候変動問題やデジタル化、経済安全保障などへの対応が迫られています。このような中、日本経済の供給力を高めて「強い経済」を実現するため、政府では、「危機管理投資」を成長戦略の柱に掲げています。

エネルギー・GXなどの戦略分野を中心に、大胆な設備投資や研究開発の促進など、官民の積極的な投資を引き出していくこととしておりますが、同時に、安全の確保は経済活動とその持続的成長が大前提であり、「安全投資」を適切に行っていくことが欠かせません。

現在、経済産業省では、急激な環境変化を予測して、将来のリスクを把握し、先んじて対応できるよう、産業保安分野における中長期課題の検討を進めています。産業界の皆様の御協力の下、保安の現場の実態把握を進め、将来にわたって安全品質の持続可能性を確保するための方策について、議論を深めてまいります。



当部においては、「国民の安全の確保と環境の保全」の実現を目指に掲げ、「強い使命感」「科学的・合理的な判断」「業務執行の透明性」「中立性・公正性」を行動規範として、皆様と連携しながら法令の適正な執行に取り組んでまいりたいと考えております。

また昨年は、保安確保のために尽力し功労のあった個人や団体に対する表彰を行い、5月は鉱山保安、8月は電気保安、10月はガス保安、11月は高圧ガス保安、火薬類保安と、各分野の保安確保において御功績のあった皆様に対して深謝する機会とできましたことは、この上ない喜びでした。

一方、当部管内における感電事故ですが、昨年は死亡事故が2件、負傷事故が9件発生しており、引き続き注意喚起と指導を行ってまいります。また、近年事故件数が増加している太陽電池発電設備への対応として、電力安全小委員会において太陽電池発電設備をはじめとする再生可能エネルギー発電設備の保安の在り方について、改めて方向性が検討され、今後対応して行くこととしております。

昨年、大阪・夢洲を舞台に開催されました大阪・関西万博は、184日間に2,500万人を超える一般入場者をお迎えして10月13日に無事、閉幕いたしました。当地域からも特色ある伝統工芸を用いた作品の展示や国際交流イベントへの参加などもあり、万博はわくわくする夢のような出会いの場として多くの方の記憶に刻まれました。万博を盛り上げるためにご尽力いただきましたとともに、足を運んでいただきました皆様に深く感謝を申し上げたいと思います。

結びに、関係各位の御健勝と御多幸、そして死亡事故ゼロの一年となりますことを祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

## 澁澤賞贈呈式 中部支部から3グループが受賞

「第70回澁澤賞贈呈式（主催：日本電気協会・澁澤元治博士文化功労賞受事業委員会）」が11月18日（火）に東京商工会議所 淀沢ホール（東京都千代田区）で開催され、中部支部推薦から3グループ・9名（うち「委員長特別賞1名」）が受賞されました。

本賞は、わが国の電気保安行政の礎を築いた澁澤元治博士の崇光な志を受け継ぎ、広く電気保安確保等にすぐれた業績をあげた方々に毎年贈られ、権威ある賞として各界より認められているもので、当日は「発明・工夫、設計・施工」「電気技術規格・基準の制定改定」「学術研究」「人材育成」「長年にわたる電気保安への功労」の5区分で、個人21件、グループ30件の計51件・151名が受賞。また、澁澤賞開催が第70回目の節目として設けられた「委員長特別賞」には、受賞者のうち4名が長年の現場活動をたたえられ受賞されました。

### 日本電気協会中部支部推薦 澁澤賞受賞者（敬称略）

会社名 受賞者	グループ名 概要
中部電力パワーグリッド 株式会社 金森 貴之（代表者） 伊藤 保則 山田 比呂志 三山 恭弘 梶田 祐介	<b>【IoT技術を活用した機器点検省力化に向けた技術開発グループ】</b> 変電設備の故障やトラブルを未然に防止するため、開閉機器について従来は定期的な点検・手入れを行ってきたが、汎用センサーを活用して機器の動作ごとにデータを得ることで、リアルタイムでの状態診断を可能にした。設備故障の予兆判定や適切なタイミングでの保全につながっている。 
中部電力株式会社 熊澤 昌宏（代表者） 真鍋 祐矢 株式会社シーテック 竹内 健一	<b>【スキルレスな管路位置測量装置の開発グループ】</b> 地中送電線のケーブルはプラスチックの管路に収められ、地下に設置される。管路の位置は他社の埋設工事などへの影響から常に把握する必要があるものの、古い図面の位置情報では精度に課題があった。そこで新たな管路位置の測量装置を開発した。装置はセンサーを組み込んだ「測量部」と、「距離測定部」で構成し、作業員が距離測定部から測量部を牽引するだけで測量を可能にした。1～2日の施工日数を0.5～1日に半減することに成功した。 
中部電力パワーグリッド 株式会社 間瀬 智一	<b>【長年にわたる電気保安の功労】</b> 入社以来39年間にわたりサービスステーション勤務を含め地域に密着した電気事業の第一線で、配電設備の保守・点検、維持に尽力した。災害や停電の際は昼夜を問わず積極的に現場に出向き緊急対応業務にあたった。技術向上と知識習得を目指して、全社配電技術オリンピック大会に3回出場。自らのレベルアップとチームの信頼関係を築いた。豊富な経験を生かし、支社大教育総括者として若手技術者の育成にも力を尽くした。 <b>委員長特別賞も受賞</b> 九州や東京など自社エリア外の災害復旧応援に尽力し、その現場活動をたたえられ受賞した。 

## スカウトが発電体験「電気っておもしろい」を伝える

10月3日（金）～5日（日）に愛知県清須市の清洲市民センターをはじめ3会場で開催された「あいちスカウト★フェスタ」に出展し、尾張地方西部を中心とした愛知県のボーイスカウトならびにその関係者に向け「電気っておもしろい」と題して発電体験コーナーおよび電気関連のパネル展示を設置して、電気に対する啓蒙・啓発活動を実施しました。

当日は、小学校1～2年生のビーバースカウトや3～5年生のカブスカウトを中心に約800名の子どもたちと引率の指導者、保護者などが来場。当協会が用意した発電体験コーナーでは、手回し発電機や足漕ぎ発電機にチャレンジ、電灯と太陽光パネルで太陽光発電の仕組みやうちわで風車を回して風力発電の仕組みを学び、電気が起きる不思議さや発電するために必要な力など身をもって体験しました。体験したスカウトからは「すごくおもしろかった」「足漕ぎ発電は大変だった」など率直な感想が寄せられるとともに、主催のボーイスカウト愛知連盟からは「有意義な体験ブースを開設してもらい有難い」「来年度以降もお願いしたい」など、高評価をいただきました。

当協会は、電気保安人材および電気関連事業を支える有為な人材の将来的な確保をめざし、これまでから次世代層に向けた啓蒙・啓発活動に取り組んでいます。



足漕ぎ、太陽光・風力発電を体験するスカウトたち

## エネルギー関係施設見学会を開催

当協会では、電気関係事業の進歩発展と地域産業・文化の進展をめざした事業を行っており、会員サービスはもとより、次世代層に向けたPR活動、特別講座、見学会、セミナーなどを開催しております。

### 会員対象 佐久間周波数変換所(電源開発送変電ネットワーク)・ダム・発電所(電源開発)、浜岡原子力発電所(中部電力)

10月23日(木)～24日(金)、佐久間周波数変換所、佐久間ダム・発電所、浜岡原子力発電所の見学会を開催し、募集した会員企業13名が参加。佐久間周波数変換所・ダム・発電所・電力所では、天竜川水系で手掛けた水力発電の歴史や、東京・中部間の電力融通を支える周波数変換技術を学び、また、浜岡原子力発電所では、原子力稼働における新規制基準を踏まえた安全性向上対策や、万が一の原子力災害発生時に備えた対応について理解を深めることができました。参加者からは「どの施設においても高い技術力に感心した」「佐久間周波数変換所の歴史・重要度を学ぶことができた良い機会であった」などの感想が寄せられました。



【佐久間ダム】  
ダム下部から堤体を見上げる



【佐久間周波数変換所】  
サイリスタバルブの仕組みを学ぶ



【浜岡原子力発電所】  
新規制基準を踏まえた安全性向上対策を学ぶ

### 次世代層対象 技術開発本部(中部電力)・碧南火力発電所(JERA)・川越火力発電所(JERA)

11月13日(木)、三重県立四日市工業高校電気科2年38名(技術開発本部・碧南火力)、12月11日(木)、静岡県立科学技術高校電気工学科2年38名(技術開発本部・川越火力)の見学会を開催。

これは、次世代層を担う電気科高校生に電気業界で働くことの魅力を伝え、電気保安人材および電気関連事業を支える有為な人材の将来的な確保を目指すことを目的とした啓蒙・啓発活動の一環として実施したもの。

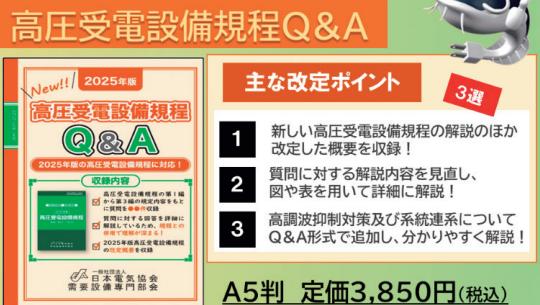
参加者からは「浮体式洋上風力発電等新しい発電の仕組みや特徴が強く印象に残った(技術開発本部)」「アンモニアや水素発電の実験は地球環境に貢献できるためわくわくした(碧南火力)」「高効率なコンバインドサイクル発電のしくみについて良く理解できた(川越火力)」などの感想が寄せられました。



【技術開発本部】  
浮体式洋上風力発電のしくみを学ぶ

## 購入受付中！「高圧受電設備規程 JEAC8011-2025」5年ぶりに改定しました。

2025年版 高圧受電設備規程 Q&A も同時発刊！



\* 送料 全国一律1か所880円(税込)

お問い合わせ先：日本電気協会中部支部 TEL 052-934-7215



恵那市街地の朝(恵那総合庁舎から)

## 岐阜県恵那市



恵那市は岐阜県南東部に位置し、標高300m前後の山間地で、700~1,000m級の山々に囲まれた自然豊かな都市です。木曽川沿いの渓谷「恵那峡」や日本三大山城の一つ「岩村城跡」などの観光資源、「日本大正村」など歴史的な町並みも魅力で、自然と文化が調和した地域です。2025年には「住みたい田舎ベストランキング」子育て部門・人口3万~5万人未満部門で全国1位を獲得するなど、移住先としても注目されています。

### 恵那峡

恵那峡は、100年前大井ダムの建設により形成された人造湖で、県立自然公園に指定されるほどの景勝地です。木曽川の浸食によって生まれた屏風岩、獅子岩、品の字岩などの奇岩や怪石が見どころ。四季折々の風景が楽しめ、春は桜、秋は紅葉が美しく、遊覧船からの景観も魅力。周辺には温泉や公園・天然記念物「傘岩」、展望台も整備されており、家族連れなどで賑わいます。



恵那峡の紅葉と遊覧船

### 岩村城跡



本丸跡の石垣

岩村城は、日本三大山城の一つとして知られる歴史的名城です。標高717mの山頂に築かれた本丸は、江戸時代の諸藩の居城の中で高い山城で、霧が発生しやすい気象条件も防衛に利用されたことから「霧ヶ城」とも呼ばされました。鎌倉時代に遠山氏によって築かれ、戦国時代には織田信長の叔母・おつやの方が女城主として統治したことで知られています。江戸時代には岩村藩の拠点となり、現在は石垣などの遺構が残り、城跡として整備されています。

### 日本大正村

日本大正村は、明智町にある、大正時代の雰囲気が街全体に残るレトロテーマパークです。1988年に町おこしの一環として開村され、旧郵便局や資料館、洋館などが点在し、大正ロマンを体感できます。矢絣の着物レンタルやカフェ、土産店もあり、観光客は当時の文化や暮らしを五感で楽しむことができます。



大正浪漫亭

### 栗きんとん 五平餅 朴葉寿司



郷土料理の五平餅（団子）

豊かな自然と山間の気候を活かした特産物が多く、特に秋の味覚「栗きんとん」が有名です。地元産の大粒栗を使い、砂糖だけで練り上げた素朴な和菓子で、茶巾紋りの形が特徴です。また、くるみや味噌・しょう油を使ったタレが香ばしい「五平餅」も人気の郷土料理。さらに、殺菌効果のある朴葉で酢飯を包んだ「朴葉寿司」は、初夏の風物詩として親しまれています。

＜お問い合わせ先＞ 一般社団法人恵那市観光協会

〒509-7201 岐阜県恵那市大井町286番地25 TEL: 0573-25-4058

写真提供 ～恵那市観光協会～